

第 10 章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高 9～10 m 前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北 500 m、東西 600 m 以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の 250 m 南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約 350 m の比高差 9 m を持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

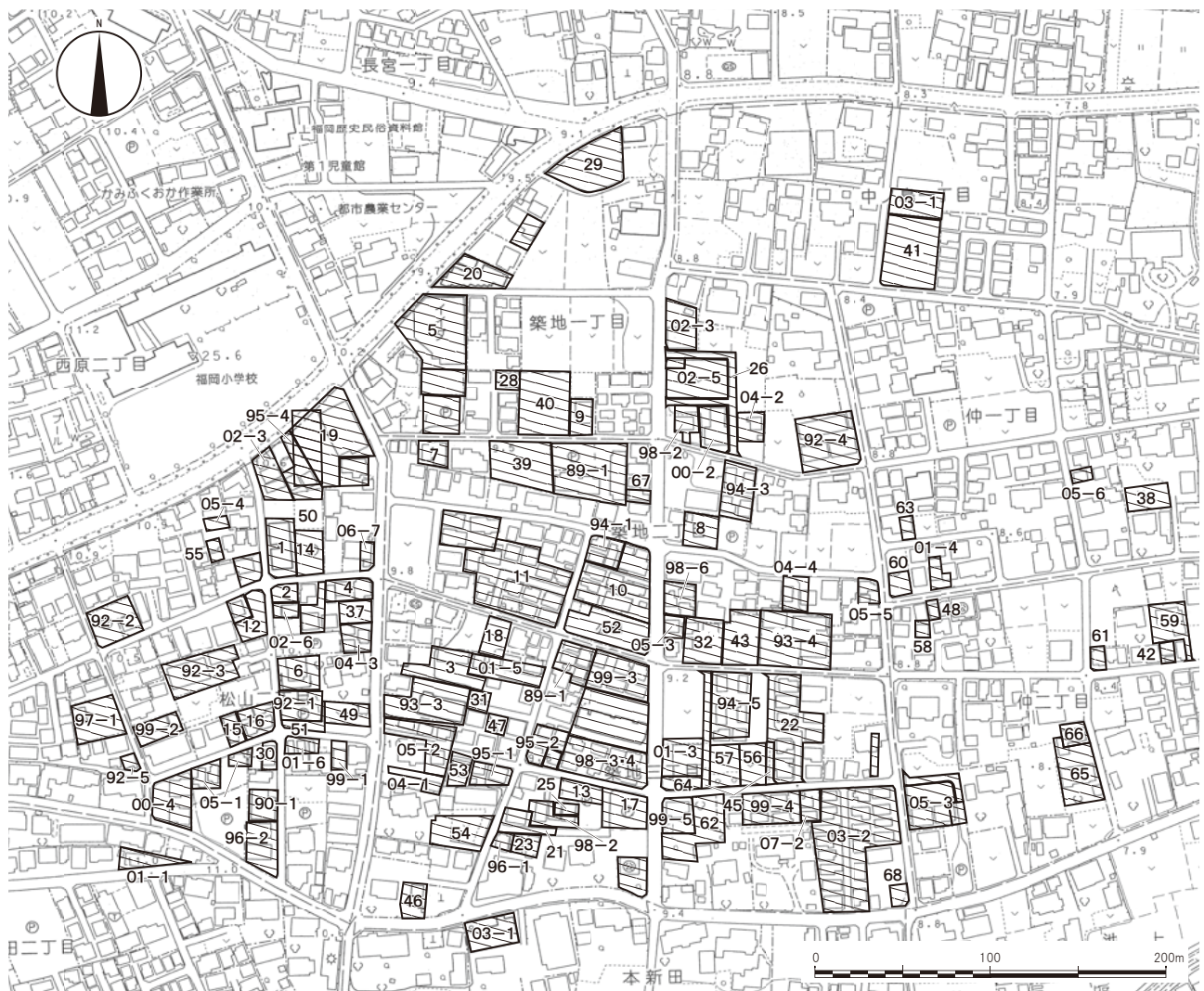
1978 年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住

居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約 100 ケ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西 240 m、南北 210 m 程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

II 松山遺跡第 57 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2011 年 3 月 28 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡



第 46 図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第 47 図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

範囲に位置するため、申請者と協議の結果、遺構などの存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は6月6日～8日に幅約1mのトレンチを3本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。時期不明の井戸1基と溝1本を確認した。遺構確認面までの深さは70～80cmで、遺跡が保護されるため、本調査不要と判断した。しかし建物基礎の設計変更等で、遺跡への影響が生じるため、本調査を実施した。本調査は建物の基礎にかかる、井戸の部分について、6月14日に行った。

井戸の平面形態は円形で、確認面径117×105cm、底径73×70cm、深さ131.8cmである。覆土層の確認から中近世以降とみられるが、出土遺物はない。溝は上幅36～60cm、深さ9.1cm。ピットの平面形態は円形で確認面径21×20cm、底径11×7cm、深さ17.6cm。溝とピットは近世以降である。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

IV 松山遺跡第59地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2011年7月5日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構などの存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年8月8・9日に行った。幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、土坑を確認した。遺跡確認面までの深さは約60cmで、遺跡への影響が避けられないため、申請者と再度協議の結果、本調査を実施した。

本調査は試掘調査に継続して、10・11日に行った。【遺構と遺物】土坑1と土坑2は隣接し、覆土層の観察から古代以降とみられる。遺物はない。

土坑1の平面形態は円形で、確認面径125×120cm、底径97×91cm、深さ58.8cmである。土坑2の平面形態は長方形で、確認面径229×162cm、底径190×140cm、深さ59.7cmである。

溝1と溝2は新しく近代以降。溝3は中近世以降で、上幅1.6～1.8mで長さ4.5m以上の溝状プランを確認した。

遺物は表土層出土である。1は縄文土器で、地文

Lr 撚糸。2は須恵器の蓋で胎土に海綿骨針含む。

V 松山遺跡第60地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2012年2月24日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の範囲内に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は同年3月26・27日、幅約1.5mのトレンチを3本設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行い、堀跡1本、溝1本を検出した。地山ローム層までは約30cmであるが、盛土により30cm以上の保護層が確保されるため、工事立会いの措置とした。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・全測図作成など記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。

【遺構と遺物】堀跡は南北に延びほぼ直角に東に曲がる。断面は逆台形で、上幅232～240cm、下幅170cm、深さ98cmである。覆土層の観察では中世とみられる。遺物は覆土上層から近世の陶磁器が出土する。松山遺跡で確認され中世の堀跡と同類の遺構であろう。

溝1は道路に並行しており側溝の可能性もある。上幅50cm以上、下幅35cm以上、深さ38cmである。溝2は、覆土層の観察で堀跡よりも古い。上幅115cm、下幅58cm、深さ26.3cmである。

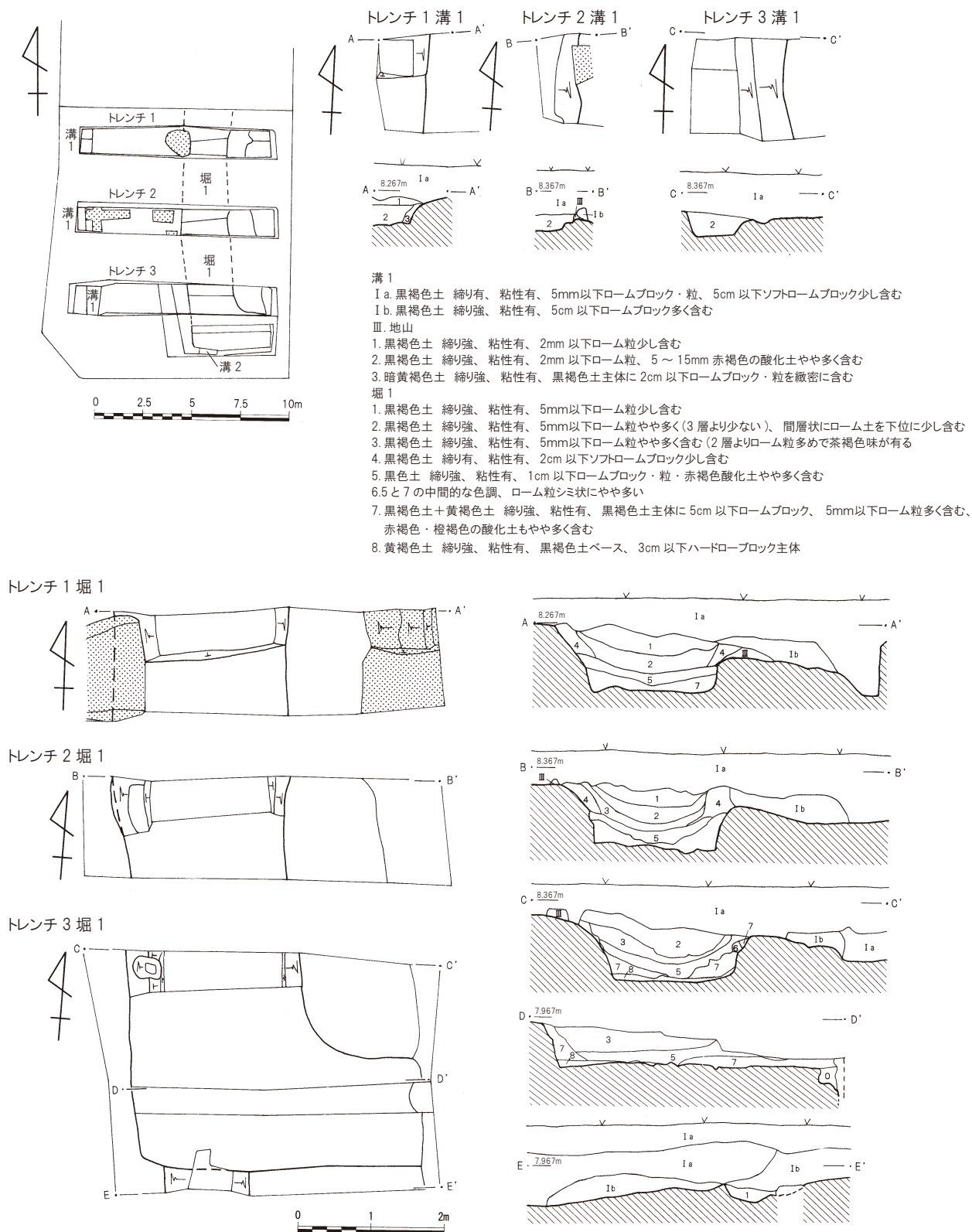
遺物は1が堀跡の覆土上層より出土。2～4は遺構外出土である。

1は磁器小坏で白磁釉を施釉。完形で口径6.3cm、底径3.1cm、高さ2.4cm。

2は陶器香炉、外面に鉄釉施釉、口径(7.4)cm。

3は陶器碗、内面白濁釉、外面白濁釉と鉄釉筒描。底径3.15cm。

4は焙烙である。



堀 1



遺構外



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

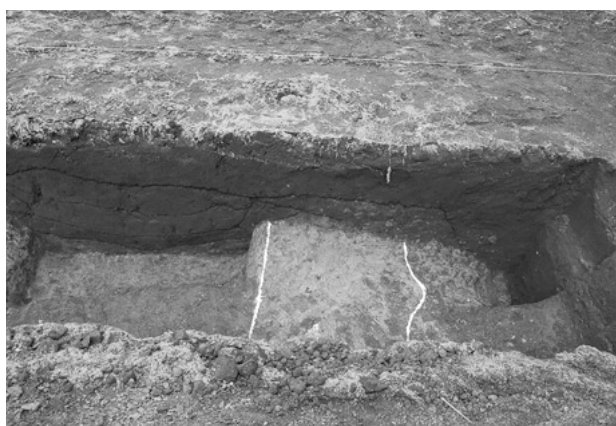
第50図 松山遺跡第60地点遺構配置図(1/300)、堀・溝(1/80)、出土遺物(1/4)



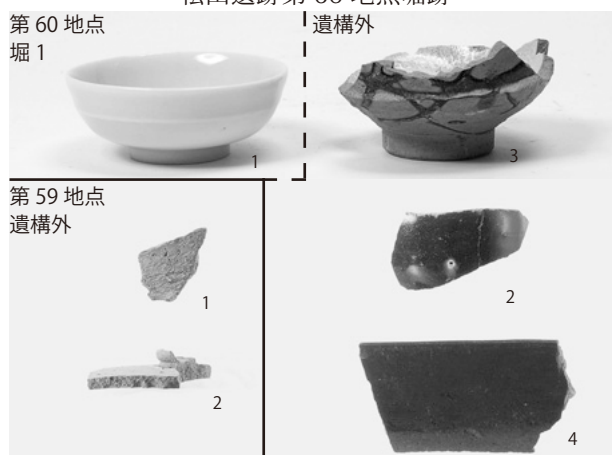
松山遺跡第 60 地点調査風景



松山遺跡第 60 地点堀跡



松山遺跡第 60 地点堀跡



松山遺跡第 59・60 地点出土遺物



城山遺跡第 2 地点調査風景



城山遺跡第 2 地点トレンチ 2



江川東遺跡第 18 地点調査風景



江川東遺跡第 18 地点近景